



『浸・河童村』

編集長 川俣のレビュー

面白さ	★★★★★
エロさ	★★★★☆
ストーリー性	★★★★★
何度も	★★★★☆

■感想

山奥の村で暮らす河童たちとの共生と子作りを描いた本作は、人外エロスの魅力がぎゅっと詰まった一冊です。

まず目を引くのは、もちもちムチムチとした質感と可愛らしさを兼ね備えた絵柄の完成度。人外らしい独特な瞳やマロ眉、透ける上着にふんどしというビジュアルが、エロさと不思議な愛嬌を同時に放っています。

ストーリーは「河童の数が減ったから種を仕込んでほしい」というシンプルかつ背徳的なシチュエーションから始まり、最初は河童三人娘との4Pですが、媚薬により全員を巻き込んだハーレム展開へと発展。休む間もなく求められる様子は羨ましさと同時に圧倒的な迫力を感じさせます。さらに、セリフのセンスも秀逸で、「潰してもらうやつ」「ヘチマ級」といったユニークな言い回しが人外感を際立たせ、読んでいて思わずニヤリとしてしまう要素。可愛さ・異種感・濃厚エロスが高水準で融合し、性癖に刺さること間違いなしの作品です。

『浸・河童村』を今すぐ立ち読み